

## 2015年1月の金融経済概況のポイント

—— 主に昨年12月の景気指標やヒアリングをもとに判断しました

### ■景気の基調判断

➤基調判断は据え置きました。

—— 昨年11月にトーンダウン（下方修正）して以降は、「基調的には持ち直している」の判断を据え置いています。

➤項目別の判断も、昨年12月から変更はありません。個人消費は、年末商戦や初売りを踏まえても、なお回復の動きは鈍い状況が続いているほか、公共投資もスローダウンの傾向に変わりありません。

### ■景気の現状認識

➤現状、景気回復に伴い、企業の収益は悪くありません。

—— 道北地域の昨年12月短観で企業の事業計画をみると、昨年度が大幅な増収・増益であっただけに、それには及びませんが、今年度の売上・収益見通しは、最近5年間では、高水準の昨年度に次ぐ水準となっています。

➤ただ、企業は景気の先行きに自信を持つには至っていないとみられ、賃金の改善や設備投資などの形で「収益を使っていく」ことには、未だ慎重です。こうした中で、家計の段階では景気回復をなかなか実感できず、財布の紐も緩まない状況にあるように思われます。

### ■個人消費の動向

➤大型店売上高は、昨年12月は一部地域で悪天候の影響もありましたが、全体として秋口以降、回復テンポが鈍っている状況です。必ずしも「安くないと売れない」ということではなく、品質と価格がマッチした商品（一部の家電や除雪機など）は、多少高くても売れており、消費者が商品を厳選して購入する傾向が続いています。

#### ▼大型店売上高

			—— 前年比、%
14/1～3月	4～6月	7～9月	10～12月
+6.3	▲4.0	▲0.7	▲2.5

## ■観光の動向

▶観光は、地域によってばらつきがみられますが、層雲峡を始めとして、外国人観光客が支えています。観光客数の最も多い台湾からの直行便が3月以降減る見込みですが、観光業界では、新千歳経由の外国人観光客の一層の誘致など、対応を採っていく方針です。

## ■今後のポイント

▶今後の景気をみる上で、好材料と懸念材料を挙げると、以下のようなものが考えられます。

### 好材料

- 原油安に伴うガソリン、灯油等の値下がり
- 人手不足に伴う賃金の上昇
- スノーボード・ワールドカップ開催による来客増

### 懸念材料

- 円安による輸入原材料価格の上昇
- 台湾からの直行便の減少（3月以降）

▶原油安や円安など、相場が見通しがたい面もありますが、4月には、消費税率引き上げから1年経ち、同税率引き上げが物価の前年比に与える影響はなくなり、世の中の物価に対する見方が少し変化する可能性もあります。

▶また、駅前再開発がさらに進み、大型小売店やホテルの開業も予定されています。「変化があるところには、工夫が生まれる」もので、これらが景気に刺激を与え、道北の景気回復が進むことを期待したいと思います。

以 上

